

ひろしまの森づくり事業（交付金事業）推進の考え方（第3期：H29～H34）

市町名：熊野町

1 要旨

熊野町の森づくり事業（交付金事業）を実施するにあたり、「ひろしまの森づくり事業に関する推進方針」を踏まえ、熊野町の里山林を取り巻く現状と課題を念頭に、第3期の推進方針を定め、これに基づいて森林の持つ公益的機能を持続的に発揮できる取り組みを行うこととする。

2 里山林の現状と目指す姿

区分	現状	課題	目指す里山林の姿	取組む内容
景観保全林	・里山林においては、手入れ不十分や竹林の荒廃化により景観が悪化している。	森林からもたらされる景観や恩恵を受けているという認識を地域住民に改めて働きかけ、荒廃化している里山林の整備を地域全体で取り組むことが課題である。	当該森林の景観が向上し自然と触れ合う憩いの場となり、地域住民が景観の維持及び森林の保全を目指す。	下刈り、枯損木、被害木の処理、竹林の伐採を実施し、景観の向上を図る。定期的に地域住民が下刈り等を行い、環境整備を行う。
防災・減災林	急傾斜地崩壊危険区域・土砂災害警戒区域において、手入れ不足により、土砂流出や崩壊等の危険性が高くなり、災害が発生する可能性の高い里山林が増加している。	手入れ不足により、里山林が持つ防災機能が低下している。	森林整備作業の実施により、植生の成長を促すことで保水機能を向上させ、大雨等による土砂災害に強い森林づくりを目指す。	急傾斜地崩壊危険区域・土砂災害警戒区域に指定された危険性の高い地域の森林から優先的に地域と一体となった森林整備を行う。
地域資源活用林				
環境緑化保全林	公共施設等において、利活用されことなく荒廃化している里山がある。	地域において環境緑化に関する取り組みは実施されているものの、依然として住民意識は高まらない。	公共施設等に植林等の緑化事業を行い、住民が緑化を実感できる機会の増加を目指す。	緑化が実感できる機会の見込まれる地域の公共施設から優先的に森林整備を行う。
鳥獣被害防止林	イノシシ等の野生動物が人里近くまで活動域を広げ、農作物被害が拡大している。	イノシシ等の野生動物による農作物被害が拡大しているため、野生動物と共生と目指す里山林整備が課題となっている。	イノシシ等の野生動物が人里近くまで活動域を広げつつあることから、人里へ近づきにくくする緩衝帯の整備により、野生動物との共生を図る。	鳥獣被害が著しい地域において、バッファゾーンとしての森林整備を実施し、その他の対策を一体的に取り組み、持続的に管理が見込まれる地域から重点的に実施する。

※区分は市町が森づくり事業に取り組む方針により選択して記載すること。

3 森林を守り育てるための取り組み

区分	現状と課題	目指す姿	取組む内容
森林を守り育てる体制 森林整備を行う者 森林整備を助ける体制 （森林資源の継続的利用）	地元自治会の中には班を編成し整備及び管理を実施している自治会もあるが、参加者は固定化し少数である。今後は人数の確保が課題である。	地元自治会及び公衆衛生推進協議会・地域住民の協力により継続的に管理及び整備を実施し、景観の向上を図る。	公衆衛生推進協議会会員及び地域住民を中心に新たな担い手を模索し、次世代に活動を引き継いでいく。
取組への理解促進 参加拡大による理解促進 事業の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろしまの森づくり事業県民税による事業の活動内容について、地域住民は周知していない。 ・住民の森林に対する認識が乏しく、住民自らが森林整備等の体験と学習をする機会の情報発信力も乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の納税によりこの事業は実施されていることを周知し、自らの事業であると言う認識を持つ。 ・森林から恩恵を受けていると言う認識の下、地域住民が首軸となり、自然がもたらす自然の恵みを大切にし、景観の保全を継続的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町広報誌に、ひろしまの森づくり事業の実績について掲載し、住民に発信する。 ・自治会懇談会等において、当該事業内容について情報提供する。また、毎月発行する地域情報誌に参加した住民の活動内容について掲載し、森林の維持活動に参加意欲を育む。 ・実施箇所については、森づくり事業で整備した旨の看板等を設置する。